

Branch Spirit

中部支部

開催報告「2016年度中部支部例会」

岩崎 雄吾

2016年度（第7回）支部例会は、8月5日（金）に名古屋大学農学部で開催されました。

伊藤支部長の開会挨拶に続き、招待講演が行われました。今回は以下の3名の先生にご講演いただきました。

- ・浅沼浩之氏（名大院・工）「医療展開を目指したDNAの機能的再インストール」
- ・中野祥吾氏（静大・食品栄養）「Wet-Dry融合による新たな蛋白質工学的手法の開発～INTMSAlignの開発と応用～」
- ・人見清隆氏（名大院・創薬）「タンパク質架橋化酵素トランスグルタミナーゼの高反応基質ペプチドの多面的活用」

いずれの講演も非常に密度の高い充実した内容で、講演後は会場から多くの質問が寄せられ活発な議論が繰り広げられました。

招待講演の後、8題の若手講演が行われました。優秀な講演には支部幹事の投票により支部長賞が授与されます（賞品はありませんが賞状と名誉が与えられます！）。8名とも質の高い発表をされ、発表後は白熱した質疑応答が展開されました。以下に発表者と演題を記載します。

- ・磯崎勇志氏（三重大院・工）「創薬標的受容体に対する高次構造認識モノクローナル抗体の作製と評価」

- ・藤谷将也氏（名大院・創薬）「細胞形態プロファイリングを用いた間養系幹細胞分化因子のスクリーニング」
- ・古市吉秀氏（名大院・工）「AtaAによるコロイド様自己凝集の定量的解析とモデル化」
- ・森昭博氏（名大院・生命農）抗体-発光タンパク質複合体を用いた新規免疫測定法の開発」
- ・鈴木溪氏（静大院・創造）「微生物燃料電池の可能性～微生物が創る未知の物質～」
- ・小林直也氏（信州大・繊維）「人工タンパク質ナノブロックの設計開発による自己組織化超分子ナノ構造複合体の創出」
- ・奥寄雄也氏（名大院・工）「ニワトリPrdm14は始原生殖細胞の発生を制御する」
- ・本山賢人氏（名大院・生命農）「好熱性古細菌由来ジホスホメバロン酸デカルボキシラーゼの変異解析」

全講演終了後、中野副支部長の閉会挨拶で講演会を終了しました。

引き続き、会場を名古屋大学内のグリーンサロン東山に移して交流会が開催されました。伊藤支部長の挨拶の後、乾杯の御発声は山根恒夫・名大名誉教授にお願いしました。しばしの歓談の後、若手講演の支部長賞受賞者が発表され、本年度は静岡大 鈴木氏と信州大 小林氏が受賞されました。

例会参加者は73名、うち42名が交流会に参加し、盛況のうちに閉会となりました。

最後に、猛暑の中、ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。来年度も多くの方々にご参加いただき、さらに盛会となることを祈念いたします。

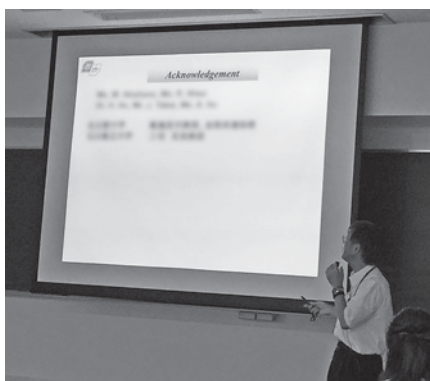


図1. 講演会の様子

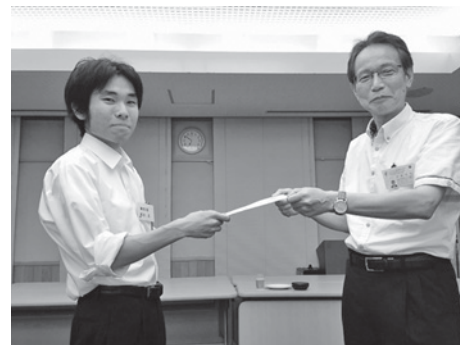


図2. 支部長賞授与（左：鈴木氏，右：伊藤支部長）